

社会歯科学講座

プロフィール

1. 教室員と主研究テーマ

- 教 授 平田創一郎
- 1) 歯科医師の需給に関する研究
 - 2) 歯科における倫理教育（倫理プロフェッショナリズム教育）
 - 3) カラーゾーニングとピクトサインを用いた感染経路別予防策の推進に関する研究
 - 4) 感染経路となるマスク、アイガードの不適正使用を抑止するための研究
 - 5) 市民参加型歯科医学教育の開発
 - 6) 歯科医師臨床研修に関する研究
 - 7) 高齢者の現在歯数をいかにして増やすか
－東京都におけるパーセントイル曲線の検討－
 - 8) 東京都歯科口腔保健推進に関する研究
－大学生における歯科保健行動及び口腔内状況調査－
 - 9) 東京都歯科口腔保健推進に関する研究
－在宅療養患者を取り巻く口腔ケア・在宅歯科診療の現状調査－
 - 10) ハンドピースの基本的使用法訓練用ツールの開発
～臨床基礎準備実習の実施に向けて～
 - 11) 効果的な知識習得のための技能を簡略化するスケッチ実習ツールの開発
 - 12) むし歯予防フッ化物洗口事業の効果および歯科口腔保健行動に関する研究
 - 13) GIS（地理情報システム）を用いた障害者の歯科医療機関へのアクセスに関する研究
 - 14) 未補綴の欠損部位を有する成人の受療行動促進モデルに関する研究
 - 15) 東京都における周術期口腔機能管理に関する調査研究
 - 16) 東京都における障害者歯科保健・医療に関する調査研究
 - 17) 東京都における児童・生徒の歯科保健行動に関する調査研究
 - 18) 16km ルール下における地理的要因からみた歯科訪問診療についての全国調査
- 助 教 大澤 航介
- 4) 感染経路となるマスク、アイガードの不適正使用を抑止するための研究
 - 10) ハンドピースの基本的使用法訓練用ツールの開発
 - 13) GIS（地理情報システム）を用いた障害者の歯科医療機関へのアクセスに関する研究
 - 18) 16km ルール下における地理的要因からみた歯科訪問診療についての全国調査
- 大学院生 石井 大貴
- 10) ハンドピースの基本的使用法訓練用ツールの開発
 - 13) GIS（地理情報システム）を用いた障害者の歯科医療機関へのアクセスに関する研究
 - 18) 16km ルール下における地理的要因からみた歯科訪問診療についての全国調査

2. 成果の概要

1) 歯科医師の需給に関する研究

歯科診療所の数はコンビニより多いと揶揄されるが、専門性が高いほど1人では対処できず、一人歯科診療所では提供が困難である。また、1人では診療所を空けることが難しく、訪問診療、周術期口腔機能管理や退院時カンファレンスといった医療連携に資することもできない。歯科医師が過剰なのではなく、歯科診療所が過剰であると考えられることができる。これに対し、不足している診療領域に歯科医師を配置するために、複数の歯科医師が勤務し、訪問診療や入院診療にも対応できる歯科医療機関を増やすことが現実的な対応だろう。また、全ての歯科医師が同じ歯科医療を提供できるのであれば、歯科医療の充足・均てん化が進むにつれ価値は下がるのは条理である。専門分化していくことも、歯科医療の価値を高めるには必要な方策であろう。

歯科医学教育白書 2021 年版(2018~2021 年)(第 8 章)歯科医学教育の自己点検・評価
教員の教育能力開発(FD/SD)
平田 創一郎
日本歯科医学教育学会雑誌(0914-5133)別冊 Page146-151(2023.02)

歯科医師養成課程の現状
平田 創一郎
東京都歯科医師会雑誌(0912-4462)70 巻 11 号 Page575-581(2022.12)

歯科医師法改正による歯科医師養成課程 見直しの経緯と臨床実習の今後
平田 創一郎
日本歯科評論(0289-0909)82 巻 7 号 Page14-15(2022.07)

2) 歯科における倫理教育 (倫理プロフェッショナルリズム教育)

倫理・プロフェッショナルリズム教育委員会では「2013 年度版 良き歯科医師になるための 20 の質問倫理的検討事例集」(以下、本事例集)を作成し、プロフェッショナルリズム教育の普及・啓発を行ってきた。第 34 回日本歯科医学教育学会・学術大会では、歯科医師・歯科衛生士育成教育に携わる教員の教育能力向上と更なる教育資源の開発を目指してワークショップを開催し、歯科医療教育や診療現場で直面しうる具体的な事例について Jonsen らの 4 分割法を用いた事例検討による教育手法に関する検討を行った。問題点として 4 分割法の使い方がわかりにくいと言う意見が最も多く、時間、人的資源、シナリオの使い込み・難易度が挙げられた。改善策として挙げられたのは人的資源の拡充と時間の確保であった。学習方略・評価はなれた手法で行うという点について、最も障壁が高いことが明らかになった。

3) カラーゾーニングとピクトグラムを用いた感染経路別予防策の推進に関する研究

歯科外来では、清潔・不潔の区分は明示的にゾーニングされておらず、主に医療従事者の意識下でのみ実施されていることから、環境表面を経由した間接接触感染予防のシステム構築が急務である。本研究では間接接触感染の予防策考案のため、ATP+AMP ふき取り検査により、歯科外来における汚染度の実態の把握を目的とした。東京近郊の 3 医療機関の歯科外来において、ATP+AMP ふき取り検査を実施し、処置前後の環境表面の汚染度を測定した。また汚染度が高いと予想される環境表面への診療時の手指の接触状況について、ビデオカメラを用いて定点観察を行った。処置前の汚染度は、ラッピングを行っている施設で非常に低く、行っていない施設では高い値を示した。抽斗は全施設で高い値を示した。定点観察ではグローブで抽斗に、素手で操作パネル、无影灯ハンドル、テーブル持ち手に接触する様子が観察された。診療時に接触する環境表面には、ラッピング等の間接接触感染対策が重要であることは明らかである一方、間接接触感染のハイリスク領域には、無意識下の接触の抑制のため、カラーゾーニングやピクトグラムを用いて明示化すべきと考える。並行して複数の色・形のピクトグラムの試作を行っており、前述の測定結果をコントロールとし、ピクトグラムによる接触抑止効果を測定する予定である。

4) 感染経路となるマスク、アイガードの不適正使用を抑止するための研究

歯科診療において、環境表面は、エアロゾル等により汚染されることが報告されている。直接接触感染対策として、グローブ、マスク、アイガード等の個人防護用具の使用が推奨されており、歯科診療所において十分に普及している。しかし、日常生活でも同様のマスクや眼鏡を使用しているため、手指やグローブで習慣的にマスク、アイガードを触る可能性があり、その場合汚染されたマスク、アイガードから手指等を介して汚染は拡大する。また使用後のマスク、アイガードを診療着のポケットに入れた場合、ポケット内にも汚染が拡大すると考えられる。つまり、診療で日常使用している個人防護具等が感染経路となる恐れがある。本研究では、マスク、アイガード、診療着の汚染度の調査及びその使用状況の調査を行う。その結果をもとに、これらの不適正使用について検討することを目的とする。

5) 市民参加型歯科医学教育の開発

平成 21 年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」【テーマ A】「大学教育推進プログラム」に基づき、模擬患者より現実の患者に近い対応をして頂く市民参加型教育団体「Patient Community (略称 P-Com)」を設立した。P-Com メンバーの方々にはコミュニケーション学教育に携わって頂いている。P-Com メンバーは平成 30 年現在 32 名となり、着実に増加している。P-Com メンバーはコンスタントにコミュニケーション学に参加しており、授業参加後のコメントは年を追うごとに提案・応援型が増え、P-Com メンバーの授業参加に対する意識の変化が生じていると思われた。また、P-Com メンバーが実習に参加することにより、学生の学修態度にも良い効果が期待される。

6) 歯科医師臨床研修に関する研究

本研究の目的は、歯科医師臨床研修を取り巻く現況を分析し、生涯研修につながる質の高い歯科医師養成体制を考案して歯科医師臨床研修制度の見直しに反映させることである。その結果、1 年目の歯科医師として広く一般的に身につけておくべき到達目標について、卒前教育から生涯研修までの連続性を考慮しつつ必要な見直しを行い、それを踏まえた研修実施体制を再構築する必要がある。また、指導歯科医講習会で扱うテーマやタイムテーブルの見直しが必要である。加えて、日本歯科医師会、日本歯科医学会分科会及び各大学同窓会は、臨床研修修了直後の若手歯科医師を対象とした基本的な内容の生涯研修事業により積極的に取り組み、これらの歯科医師の生涯研修の習慣形成に大きな役割を果たすことが期待される。

7) 高齢者の現在歯数をいかにして増やすかー東京都におけるパーセンタイル曲線の検討ー

高齢者の現在歯数を増加させる歯科保健施策の提案を行うことを目的に、平成 21 年度及び 26 年度「いい歯東京」達成度調査の東京都歯科診療所患者調査資料を用いて、現在歯数の年齢別経年比較、パーセンタイル曲線の比較を行った。年齢別経年比較において、H26 では H21 と比較して 60 歳で現在歯数が有意に増加していた。パーセンタイル曲線では、概ね現在歯数の増加がみられたが、90 パーセンタイル曲線の 70 歳以降では変化がみられなかった。また 75、90 パーセンタイル曲線において現在歯数が 25 本を切ると歯の喪失に加速がみられ、90 パーセンタイル曲線においては 20、45 歳頃、歯の喪失に加速がみられた。大学・企業歯科検診実施や歯周疾患検診実施率の向上と、歯の喪失予防のための保健指導が必要と考える。ハイリスクストラテジーとして 20 代で 26 本以下、40 代で 24 本以下の者に対し定期的な歯科受診と歯の欠損に対する積極的な治療を促す施策が重要と考える。

8) 東京都歯科口腔保健推進に関する研究ー大学生における歯科保健行動及び口腔内状況調査ー

高齢者の現在歯数を増加させる施策を提案することを目的に、東京都「大学生における歯科保健行動及び口腔内状況調査」のデータを用い、大学在学生の歯科保健行動及び口腔内状況を考察した。平均現在歯数は 28.8 本、平均未処置歯数は 1.1 本、歯肉に所見のない者は 63.6% であり、良好な結果を示した。歯科保健行動に関しても、概ね良好な結果を示した。「1 年以内に『歯科医院』にかかった者」、「かかりつけ歯科医を決めている者」、「8020 運動を知っている者」の割合が低い値を示した。大学近隣の歯科診療所を紹介したリーフレットの配布、東京都医療機関案内「ひまわり」等の周知などの取組が、現在の住所地でかかりつけ歯科医を決め、定期的な歯科受診を促す有効な手段であると考えられる。

9) 東京都歯科口腔保健推進に関する研究ー在宅療養患者を取り巻く口腔ケア・在宅歯科診療の現状調査ー

より良い在宅歯科診療・口腔ケアの提供体制を作るために、ケアマネジャーの歯科口腔保健に対する認識、在宅療養者の歯科支援の実態を把握することを目的に、東京都「在宅療養患者を取り巻く口腔ケア・在宅歯科診療の現状調査」の結果をもとに、集計を行った。在宅療養者を担当するケアマネジャーの歯科の知識あるいは歯科への関心が乏しい傾向がうかがわれた。担当する利用者の口腔内の状況を把握している者は 79.5% であるが、自身で口の中を見ているわけではなく、歯科的介入の必要性が見落とされている可能性も十分に考えられる。居宅サービス利用者の内、定期的に歯科による口腔ケアを受けていないのは 56.8% で、その理由は「本人が希望しないから」が 46.9% と最も多かった。また、食事や口に関する相談先は歯科医師が最も多く、次いでケアマネジャーが多かった。要介護度が上がるほど、口腔清掃が誤嚥性肺炎防止につながることを知っていた。

10) ハンドピースの基本的使用法訓練用ツールの開発 ～臨床基礎準備実習の実施に向けて～

我々は歯科用ハンドピースの基本的使用法訓練ツールを開発した。本研究では、新しい訓練プロトコルの効果の検証を行う。対象は、東京歯科大学1年生の希望者7名とした。本ツールを4週間貸与し、新しい訓練プロトコルに従って、継続的にできるだけ多く自習するよう指示した。前半の自習は前回と同じくシールへの筆記や描画とした。自習開始1週後に使用方法を確認し、2週後に評価を行った。後半は自習に窩洞形成済み人工歯の窩洞をなぞる操作を追加し、4週後に評価を行った。自習量は期間を通じ記録させた。形成の評価は、自習開始前 8.0 ± 2.0 点、2週後 9.6 ± 2.9 点、4週後 9.9 ± 3.3 ($5.5 \sim 13.5$) 点であった。本プロトコルによる自習を行うことで、3次元的な窩洞形成の技能が向上する傾向を認めた。本ツールと新しい訓練プロトコルによる自習によって、実際に切削せずともハンドピースを用いた3次元的な基本的使用法が上達する可能性が示唆された。

11) 効果的な知識習得のための技能を簡略化するスケッチ実習ツールの開発

スケッチ実習は組織学の学習の上で極めて一般的な学習方略である。その行動目標は組織構造を形態的に識別・抽出し、関連する知識を身につけることであり、認知領域の解釈に相当する。一方、スケッチを行う上では描画するという精神運動領域が必ず要求される。したがって、学習者がスケッチの技能が下手なため、あるいは逆に上手なために知識が身につけているか判断できない場合が散見される。スケッチの技能の上達は必ずしも行動目標ではないため、効率よく知識を習得するための学習ツールが望まれる。そこで今回、スケッチ実習ツールを開発したので報告する。書字や絵画の初学者に対する学習方略には、なぞる、模写するといった方法が一般的である。そこで、理想的なスケッチがどの部位をどのように抽出し描画しているかを動画で示し、学習者はそれを模写する方法をツール化した。本法のメリットは、精神運動領域という学習に時間がかかる方略を自学自習、反復継続することができる点にある。今後、本ツールの学習への効果を評価する予定である。

12) むし歯予防フッ化物洗口事業の効果および歯科口腔保健行動に関する研究

幼齢期・学齢期は齲蝕になりやすいため、齲蝕抑制・予防を目的に幼稚園・保育園及び小中学校におけるフッ化物集団洗口は広まってきている。しかし、生涯にわたり口腔内を健康に保つためにはフッ化物集団応用だけでなく、ライフステージに合わせた各個人の歯科口腔保健行動が不可欠である。フッ化物洗口を行うことによる歯科口腔保健への意識向上と、併せて行う歯科保健指導との相乗効果が期待される点である。本研究は、千葉市内の小中学校におけるフッ化物洗口の齲蝕抑制効果と併せて行う歯科保健指導が、小学生とその保護者の歯科口腔保健行動に与える影響について調査し、新たな歯科口腔保健プログラムの検討を目的とする。結果から、対象小中学校の児童の口腔内状況および歯科口腔保健行動のベースラインデータを示した。齲蝕有病者率は学校保健統計調査と比較し、高い傾向であった。歯科口腔保健行動においては保護者の一層の介入の必要性が認められた。

13) GIS (地理情報システム) を用いた障害者の歯科医療機関へのアクセスに関する研究

適切な障害者歯科医療提供体制構築に対し提言することを目的として、日本障害者歯科学会認定医 (以下、認定医) が在籍する医療機関へのアクセシビリティを検討する。障害者歯科医療提供体制を可視化し分析するために、地図ソフトを用いてマッピングし、二次医療圏単位で分析及び地方厚生局の管轄区域ごとに二次医療圏カバー率を算出した。全344二次医療圏のうち、認定医在籍医療機関が存在する二次医療圏は170医療圏で、全体の49.4%であった。過疎地域型二次医療圏地域に認定医在籍医療機関が少なく、過疎地域型二次医療圏が障害者歯科医療提供体制の拡充を阻害している可能性が示唆された。長期的には認定医在籍医療機関を過疎地域型二次医療圏に配置することが望ましいが、認定医の養成には相応の時間を要することから、広域搬送システムの確立など、必要に応じて専門的な障害者歯科を受診できる体制づくりが必要であると考えられる。

14)未補綴の欠損部位を有する成人の受療行動促進モデルに関する研究

未補綴の欠損部位を有する成人の受療行動、その理由及び欠損の予後に関する知識を調査し、彼らの受療行動促進モデル作成のための基礎データを得ることを目的とした。

未補綴の欠損部位を有する40歳～69歳の者618名を対象に、未治療の理由、歯の喪失状況、欠損部位、定期通院率、歯科受診率、欠損の予後に関する知識の有無についてweb調査を行った。

未治療の理由としては、「食事に困らないから(36.6%)」「費用がかかるため(23.2%)」「見ためにこまらないから(22.5%)」が多かった。またそれは歯の喪失状況・喪失後の受療行動によって違いがあることが示され、それらの違いは欠損の予後に関する知識不足によるものでは必ずしもなかった。

未補綴の欠損部位の受療行動を促進するためには、従来の画一的な予後に関する保健指導では効果がないため、それだけでなく費用や治療期間等、歯を失った状況や患者行動などの患者背景に応じた情報提供が必要であると考えられる。

15～17)東京都の委員として、周術期口腔機能管理に関する調査、障害者歯科保健・医療に関する調査、児童・生徒の歯科保健行動に関する調査に携わり、委託事業としてアンケートの解析と報告書の作成を行った。

- ・『周術期等口腔機能管理』に関するアンケート調査結果報告書
- ・歯と口に関するアンケート調査(利用者回答用)報告書
- ・歯と口に関するアンケート調査(事業所回答用)報告書
- ・「児童・生徒の歯科保健行動に関する調査」報告書

18) 16kmルール下における地理的要因からみた歯科訪問診療についての全国調査

高齢化が進展する我が国であるが、歯科訪問診療を実施する医療機関数の伸び率は小さく、通院困難な高齢者への歯科医療提供体制について検討を要する。

本研究は在宅療養支援歯科診療所1、2による歯科訪問診療の原則的な提供可能範囲(半径16km圏)を、GIS(Geographic Information System)を用いてマッピングし可視化する。同時に、歯科訪問診療非到達地域である半径16km圏外に居住する高齢者人口から、高齢者人口カバー率を算出し分析する。

関東信越厚生局管轄1都9県を対象とした調査では、山間地域や島しょ地域において高齢者への歯科医療提供体制が充足されていないことが示された。引き続き対象を全都道府県に広げ、地域格差および経年変化分析を行い、さらに将来予測を行う。

以上を通じて得られた知見を広く国民および行政に提供することが、本研究の主たる目的である。

歯科訪問診療高齢者人口カバー率 東京都の調査結果

石井 大貴, 平田 創一郎, 大澤 航介

社会歯科学会雑誌(2434-2084)15 巻 1 号 Page58

無歯科医地区などを含む過疎地域における『訪問歯科診療』の安定供給に関する調査

中久木 康一(東京医科歯科大学 大学院歯学総合研究科救急災害医学分野), 安藤 雄一, 平田 創一郎,

小原 由紀

日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)81 回 Page388

3. 学外共同研究

	研究課題	学外研究施設		
		研究施設	所在地	責任者
平田創一郎	わが国における歯科医療倫理学の構築のための発展的研究	大阪歯科大学	大阪市	樫 則章

4. 科学研究費補助金・各種補助金

研究代表者	研究課題	研究費 科研費の場合は種別も記載
平田創一郎	フッ化物洗口の効果を検証するための調査	一般社団法人 千葉市歯科医師会委託契約事業
大澤 航介	地理情報システムを用いた障害者歯科医療アクセスマップの作製	文部科学省科学研究費補助金・若手
平田創一郎	「令和4年度かかりつけ歯科医機能推進等に関する調査」結果の解析	公益社団法人 東京都歯科医師会委託契約事業
平田創一郎	「令和4年度東京都歯科診療所患者調査」結果の解析	公益社団法人 東京都歯科医師会委託契約事業
平田創一郎	「令和4年度東京都における障害児（者）の歯科保健に関する実態調査 施設編」結果の解析	公益社団法人 東京都歯科医師会委託契約事業
平田創一郎	「令和4年度東京都における障害児（者）の歯科保健に関する実態調査 利用者編」結果の解析	公益社団法人 東京都歯科医師会委託契約事業

5. 研究活動の特記すべき事項

学会・研究会主催

主催者名	開催年月日	学会・研究会名	会場	開催地
地域歯科保健研究会	2022.8.20	第38回地域歯科保健研究会	オンライン	Web

シンポジウム

シンポジスト	年月日	演題	学会名	開催地
平田創一郎	2022.8.6	『1.5次歯科医療機関（診療所）を考える』 大学の立場から	第7回社会歯科学会学術大会	Web
平田創一郎	2022.7.23-8.20	モデル・コア・カリキュラム改訂歯学教育モデル・コア・カリキュラム 社会系歯学領域の改訂のポイント	第41回日本歯科医学教育学会学術大会	Web
平田創一郎	2022.7.23-8.20	倫理・プロフェッショナリズムの教育の現状	第41回日本歯科医学教育学会学術大会	Web

平田創一郎	2022. 11.4-6	今、岐路に立つ地域の障害者歯科医療—地域で活躍する口腔保健センターの現状と課題、そして未来—障害者歯科医療の現状と課題～障害者等が定期的に歯科検診・歯科医療を受けられるために～	第39回日本障害者歯科学会総会および学術大会	岡山市
-------	-----------------	--	------------------------	-----

学術学会に相当しない団体が開催するセミナー・研究会・カンファレンス等における発表・講演

講演者	年月日	演題	会合の名称	開催地
平田創一郎	2022.8.20	歯科医師法改正と歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂行政に何が求められるのか？	第38回地域歯科保健研究会	Web

6. 教育講演等教育に関する業績、活動

教育に関する講演（医学・歯学における教育をテーマとするものに限る）

講演者	年月日	演題	学会・研究会・会議名	開催地
平田創一郎	2022. 7.23-8.20	倫理・プロフェッショナリズム教育を再考する コンピテンシー評価・360度評価を踏まえて	第41回日本歯科医学教育学会学術大会	Web

教育ワークショップ・FD 研修

氏名	年月日	ワークショップ名	役割	開催地
平田創一郎	2022. 5.20-22	第82回医学教育セミナーとワークショップ	受講	Web
平田創一郎	2022. 7.1-8.15	第50回産業歯科医研修会	受講	Web
平田創一郎	2022 7.27	医学・歯学教育指導者のためのワークショップ	ファシリテーター	Web
平田創一郎	2022.8.4	教育ワークショップ「衛生系・社会系分野の再整理について」	リーダー	Web
平田創一郎	2022. 8.25-10.31	令和4年度教職員・情報通信技術支援員（ICT支援員）著作権講習会	受講	Web
平田創一郎	2022. 10.21-23	日本歯科医師会主催 令和4年度歯科医師臨床研修指導歯科医講習会	タスクフォース	Web
平田創一郎	2022. 10.29-30	歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会	タスクフォース	Web
平田創一郎	2022. 11.26-27	歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会	タスクフォース	Web
平田創一郎	2022. 12.10-11	歯科衛生士の研修指導者・臨床実地指導者等講習会	タスクフォース	Web
平田創一郎	2022. 12.15-17	こばやし歯科クリニック指導歯科医講習会	タスクフォース	Web

平田創一郎	2022. 12.17-19	歯科医療振興財団 プログラム責任者講習会①	タスクフォース	Web
平田創一郎	2023. 1.7-9	歯科医療振興財団 プログラム責任者講習会②	タスクフォース	Web
平田創一郎	2023. 1.13-15	第42回東京歯科大学カリキュラム 研修ワークショップー歯科医師臨 床研修指導歯科医講習会ー	タスクフォース	Web
平田創一郎	2023. 1.24-26	日本歯科医学教育学会 プログラム責任者講習会①	タスクフォース	Web
平田創一郎	2023. 1.28-29	歯科衛生士の研修指導者・臨床実地 指導者等講習会④	タスクフォース	Web
平田創一郎	2023. 2.22-2.24	指導歯科医講習会講師養成研修会	部会長・ タスクフォース	Web
大澤 航介	2023. 2.22-2.24	指導歯科医講習会講師養成研修会	受講	Web
平田創一郎	2023. 2.28-3.2	日本歯科医学教育学会 プログラム責任者講習会②	タスクフォース	Web
平田創一郎	2023. 3.14-16	日本歯科医学教育学会 プログラム責任者講習会③	タスクフォース	Web

共用試験

氏名	年月日	種別	役割	開催地
平田創一郎	2023.1.23	OSCE 全体説明会（事務職）	実施責任者	東京都 千代田区
平田創一郎	2023.1.23	OSCE 係員全体説明会	実施責任者	東京都 千代田区
平田創一郎	2023. 2.25	4年生共用試験 (OSCE) テストラン	実施責任者	東京都 千代田区
大澤 航介	2023. 2.25	4年生共用試験 (OSCE) テストラン	評価者	東京都 千代田区
平田創一郎	2023. 2.26	4年生共用試験 (OSCE)	実施責任者	東京都 千代田区
大澤 航介	2023. 2.26	4年生共用試験 (OSCE)	評価者	東京都 千代田区

他の大学・研究機関等における学生・大学院生を対象とする講義

担当者名	年月日	テーマ・演題	大学・機関	所在地
平田創一郎	2022. 4.14	社会歯科学 講義	大阪大学	Web
平田創一郎	2022. 6.28	社会歯科学 講義	長崎大学	Web

平田創一郎	2022. 12.8	歯科衛生行政学講義	静岡県立短期大学	静岡県 静岡市
平田創一郎	2022. 12.15	歯科衛生行政学講義	静岡県立短期大学	静岡県 静岡市
平田創一郎	2022. 12.22	歯科衛生行政学講義	静岡県立短期大学	静岡県 静岡市
平田創一郎	2023. 1.12	歯科衛生行政学講義	静岡県立短期大学	静岡県 静岡市